

B型肝炎による感染症について

B型肝炎ウイルスの感染は、急性肝炎となりそのまま回復する場合もあれば慢性肝炎となる場合があります。一部劇症肝炎といって、激しい症状から死に至ることもあります。また、症状としては明らかにならないままウイルスが肝臓の内部に潜み、年月を経て慢性肝炎・肝硬変・肝がんなどになることがあります。年齢が小さいほど、急性肝炎の症状は軽いかあるいは症状はあまりはっきりしない一方、ウイルスがそのまま潜んでしまう持続感染の形をとりやすいことが知られています。感染は、B型肝炎ウイルス(HBs抗原)陽性の母親から生まれた新生児、B型肝炎ウイルス陽性の血液、体液に直接触れたような場合、B型肝炎ウイルス陽性者との性的接触などで生じます。

B型肝炎ワクチンについて

組換え沈降B型肝炎ワクチン(酵母由来)は、B型肝炎ウイルスDNAのHBs抗原に相当する部分を酵母菌の遺伝子(DNA)に挿入し培養することで、ワクチンの有効成分であるHBs抗原をつくり、免疫増強剤としてアルミニウムゲルを加えて調製したワクチンです。母子感染予防、HBV陽性血液での針刺し事故や水平感染予防にも使用されます。小児の場合は肝炎の予防というより持続感染を防ぎ、将来発生するかもしれない慢性肝炎・肝硬変・肝がんの発生を防ごうとする事が最大の目的です。最も感染リスクが高い母子感染予防、家族など近親者が肝炎ウイルス陽性である場合の感染予防、また、それほどリスクは高くはないものの集団生活の中での感染の可能性なども含め、接種が勧められます。

副反応

主な副反応としては、局所反応として腫脹、発赤、疼痛など、全身反応として倦怠感、頭痛などがあります。

重い副反応としては、まれにですがショック、アナフィラキシー、多発性硬化症、急性散在性脳脊髄炎、脊髄炎、視神経炎、ギラン・バレー症候群、末梢神経障害の発生も報告されています。

対象者及び接種スケジュールについて

1歳未満

※対象年齢を過ぎると、公費での接種は受けられなくなります。

母子感染予防として、出生後にB型肝炎ワクチンの接種を受けたことのある者は定期予防接種の対象外です。

※2回目以降の接種は、ワクチンを接種した日の翌日から起算してください。



接種時に持参するもの

- ① B型肝炎予防接種予診票
- ② 母子健康手帳
(接種歴を確認するとともに、予防接種を受けたことを記録します。)